

飛行機雲はどこへ行く
向日葵はどこを目指す
虹はどこから生まれる
答えははぐらかして隠した
頬を撫でる風が生温い
蛇口をひねれば癒せる乾きが
何となく愛しくて手放せない
早起きな陽射しのむせる温度が
何となく嫌いになりきれない
思い出にはまだ惜しい
月が綺麗ですねと言うには、少し
太陽が眩し過ぎる季節だ

「間もなく列車が参ります」
進まなくては進めない

車窓を時間が通り過ぎた
揺れる車内が心音と重なる
この軋みもまた心地いい
蜃気楼の街の帳
或いは微睡む記憶の箱庭
霞む視界の向こう岸に
淡い季節が漂っていた
咲かずに枯れた青い蕾に
踏切の音は
まだ、遠く